

会議名	<p>匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業 平成 29 年度 第 5 回 飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録</p>	
日 時	平成 30 年 1 月 20 日 (土) 15 時 30 分～16 時 30 分	
出席者	<p>■協議会委員</p> <p>井上峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長 村井康佑 匝瑳市豊栄地区シニアクラブ会長 代理出席 飯島長男</p> <p>栗山恭典 千葉興業銀行法人戦略部長代理 代理出席 柴田実 千葉興業銀行八日市場支店長</p> <p>加瀬功一 匝瑳市ボランティア連絡協議会長 増田利夫 豊栄地区社会福祉協議会長 片岡正勝 豊栄地区区長会長 松本理 前豊栄地区区長会長 大久保彰彦 八日市場青年会議所社会開発委員会担当副理事長 代理出席 佐瀬守</p> <p>■事務局</p> <p>社会福祉法人九十九里ホーム 江波戸美代 専務理事 鈴木敦子 事務長 株式会社ローカルファースト研究所 関幸子、林雅孝</p> <p>■オブザーバー</p> <p>大木寛幸 匝瑳市 企画課長 林雅之 匝瑳市 企画課まちづくり戦略室長</p>	
議事録	事務局	<p>1 開会 開会のあいさつを行った。</p>
	井上会長	<p>議事 1 意見交換会について 本日の意見交換会の意見、感想</p>
	A 委員	<p>1 番大きく感じたのは各主体、団体がいかに連携して課題を解決していくかが印象に残った。タテワリを無くしていかないと物事が進まない。垣根を乗り越えて連携していくことがひとつのポイ</p>

		<p>ントだと思う。同時に、経済的なことも考え、ボランティアだけではなく、経済的な循環を生み出していかないと長続きしない。市民活動で利益を生み出す仕組みをどのように作ればよいか考える必要がある。それが、町全体の経済の活性化につながるような考え方をしていかなければならない。自分たちがしていることの重み、代価、対価を考えていかなければならない。</p>
	井上会長	<p>1月13日の住民説明会の参加者の中から、こども園や特養は建設後の経営が可能だと思うが、交流スペースの中に様々な機能を持たせる計画については、きちんとやっていけるものなのかという意見があった。交流ゾーンの運営費として数年は市からの補助があるが、それ以降はどのように運営していくかが大事。</p>
	匝瑳市	<p>今日の話はヒントになった。心配しているのはその部分。交流ゾーンの運営が1番難しいと思う。野崎先生から具体的な事例をいただき、何とかやれそうな感じになった。</p>
	B委員	<p>厚生労働省の管轄だったので認知症と障害者の方とのかかわり、地域共生の話がメインで、1番気になったのは、行政にぶら下がらないで考えなければいけない時代が来ると感じた。行政にぶら下がらないで地域を活性化させることを考えなければならぬ。今後、地域をどのようにしたいかは次世代の若い人たちが考えなければならぬ。若い人たちは匝瑳市の地域の魅力をあまり感じていない。恵まれていて感じていない部分を若い人たちが考え、地域の魅力を有効活用していくことが必要。農業や田植え体験など学校の授業で人をどのように呼ぶのか、地域に関わる人をどう増やしていけばよいのかなど考える必要がある。雇用は、千葉県立東総工業高等学校120人の卒業生や就職希望者に対し1,850社の募集がきた。地域の雇用は全く無いわけではないと思う。若い人でも地元に残りたい考えの人もいるため、その人たちを確実に残して取り組みをしていく。</p>
	井上会長	<p>ますます、地元に残る人が増えないと人口が減る。地元で就職したいと考えている人は少しはいると思う。</p>
	匝瑳市	<p>世界的に通用する特許を持っている企業などもあるが知られて</p>

		<p>いない。高校生が就職する際に親の意見は大きい。保護者へ企業の優秀なところや魅力的なところの PR や 2 年生のうちから企業からの話を聞き、若い社員から就職の経緯などの話をしてもらうなどマッチングの場を作っている。</p>
C 委員		<p>厚生労働省がここまで変わるのか、と思った。自分たちの事業にどのように位置づけて、どのようにしてお金をもらうか。今日来た人たちは、補助金をもらう努力をしたらよいのではと思う。江戸時代では人生 50 年、15 歳で元服、45 歳で譲り、後の 10 年は孫育て。現代なら、人生 100 年のうち 70 歳以降の 30 年は孫育てにしようかと思う。生涯現役ということも含め 1 番良いと思う。まずは自分の家庭から匝瑳市の良いところを話していきたい。個人だけではなく法人も同じ。ひとりひとりが輝ける会社をつくり、自らの力で人を呼べる会社になりたい。</p>
井上会長		<p>C 委員のように、まずは身近な孫に匝瑳市の良いところを伝える。人材の問題は大きな問題である。私たちが新年度、新卒就職者は十数人で全く足りない。1 施設に 1 人程度では足りない。実際、新卒をどう引き留めていくかは大きな課題。</p>
D 委員		<p>JC として、子どもたち含め私たち同世代をどう外に出さないかを第一に考えている。新年、飯高寺へ行ったところ飯高寺のことを知らない人も多かった。若い世代が知らない匝瑳市の魅力はたくさんあると思う。若い人たちに魅力として発信する際、他にはない食や文化、伝統などを伝える。飯高寺を知らないメンバーも多かったため、住職に説明を受けた。若い人たちが一步踏み込んで地域の問題課題を知り、地域団体の催しなどにも積極的に参加して知ること、地域の子どもや中高生や若い人たちに発信していきたい。2 月に横芝敬愛高校主催で、意見交換会を開催する。地域の政治に関心を持ってもらいたい。この地域に根付いてもらう方法を考えたい。自分の会社で働きたいと思わせる会社づくりをしていく必要がある。地域にも良い企業がたくさんあるため、地域の外に出さない工夫をしていきたい。</p>
井上会長		<p>ぜひ、地元のことを知りたい。若い人は、我々の時代の感覚と違う。知らないのは現実。地域のことを良くするために、地域の歴</p>

	<p>匝瑳市</p> <p>井上会長</p>	<p>史なども知る必要がある。</p> <p>野崎先生が同じシートを最初と最後に使っている。個人的に「少子高齢化・人口減少の波が押し寄せる中、何を守りたいですか。」という問いには、自分が普段何となく感じている地域の風景や景色、伝統や文化などを残したい。今現在の状況を残すためには、地域の活力を維持していかななくてはならない。今日は生涯活躍のまち形成事業の意見交換会という視点で考えると、交流拠点を地域のどこまで、どのように、広げていくかを考えなければならない。上手な仕掛けや仕組みを考える必要がある。市として今後のまちづくりをしていくうえで、協働でしていかなければならない。この地域に魅力があると思っている。まだ、それをうまく伝えきれないでいるが何とかして、上手な仕組みを作れば何とかできる自信が生まれた。</p> <p>施設の入れ物は順調に進んでいるが、まだ九十九里ホームがなにやら事業をしているという捉えられ方である。施設だけでなく周辺にどのような機能を持たせれば地域が元気になるかを考えるうえで、今回の意見交換会は役に立ったのではないかと思う。講演会後の意見等は計画の中に付け加えてもらえたらよい。</p>
	<p>井上会長</p> <p>事務局</p>	<p>議事 2 飯倉駅前地区まちづくり協議会 今後の進め方とスケジュールについて 事務局より説明願います。</p> <p>資料 1 に基づいて説明。(要点のみ記載)</p> <p>1 匝瑳市版生涯活躍のまち事業計画書について (1) 前回の協議会からの主な変更点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「第 6 章 具体的事業 2 対象地域、拠点整備の考え」 4つのゾーンと機能についての図の変更 ②「第 6 章 具体的事業 3 導入機能」記述項目について 変更 ③「第 10 章 実施計画」第 6 章から、予算、スケジュール 等に移行し、具体事業ごとの実施計画を追加 <p>2 今後のスケジュールについて</p>

	<p>匝瑳市</p> <p>井上会長</p>	<p>2月24日の資料はいつまでにもらえるのか。</p> <p>事業計画書案を2月5日頃までには1度配布する。変更などあれば2月24日より少し前に再配付する。</p>
	<p>井上会長</p> <p>A 委員</p> <p>井上会長</p>	<p>議事3 その他について 委員の皆様から何かあればお願いします。</p> <p>住民説明会は3回開催するのか。</p> <p>地区ごとに説明会を行っている。事業計画の中間報告と、特養の建設について説明した。交流ゾーンの将来にわたる運営についての意見があった。サービス付き高齢者住宅が9階建てで建設されるのか質問があり、もう少し低階層で考えている旨を伝えた。子ども連れの若い人は期待を寄せていた。住民にとってサ高住の高さや赤道について心配なこともあるようだが、大きなマイナス意見はなかった。</p> <p>次回は2月24日14時00分から。これからも引き続き協力お願いします。何かあれば、九十九里ホームの法人本部に連絡ください。</p>
	<p>井上会長</p>	<p>4 閉会 閉会の挨拶を行った。</p>